

平成24年度 農業農村工学会大会講演会
企画セッション「論文集での電子査読システムの導入について」
平成24年9月19日(水), 札幌

スムーズな投稿と査読へ向けて

For a Submission and Review Process without a Hitch

飯田俊彰

東京大学大学院農学生命科学研究科

論文集編集委員：H19年10月～H23年10月

閲読小委員長, 同補佐：H21年6月～H23年6月

はじめに

- 学術雑誌 →ピアレビューによる査読
- 研究者の業績評価等では、個々の論文が査読を経たものか否かで扱いが異なる
→著者は好むと好まざるとに拘わらず査読を意識

投稿後の査読過程で、大小様々な問題！

著者，査読者，編集委員にとってストレスフル！

できるだけ遅滞なく査読プロセスを進めたい！

目 的

- スムーズな投稿と査読へ向けて
- 原稿執筆段階で留意すべき点を抽出することを目的とする
 - 査読者からの指摘の分析

材料と方法

- 本学会論文集の**研究論文および研究報文**への投稿
- **H21年6月～H23年6月頃**（著者が閲読小委員長，同補佐を務めた期間）の計186件を調査対象とした
 - H21年6月～H22年6月 →H21年度
 - H22年7月～H23年6月 →H22年度 と呼ぶ
- 初回，2回目の**査読判定の状況**
- **掲載不可の事例**の検討
 - d判定査読での指摘事項の精査と分類

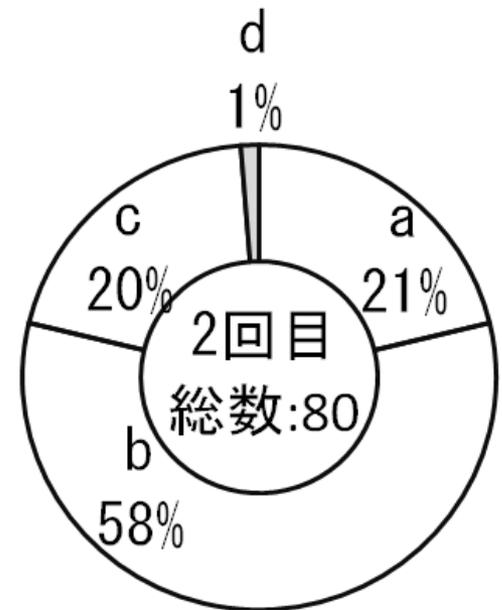
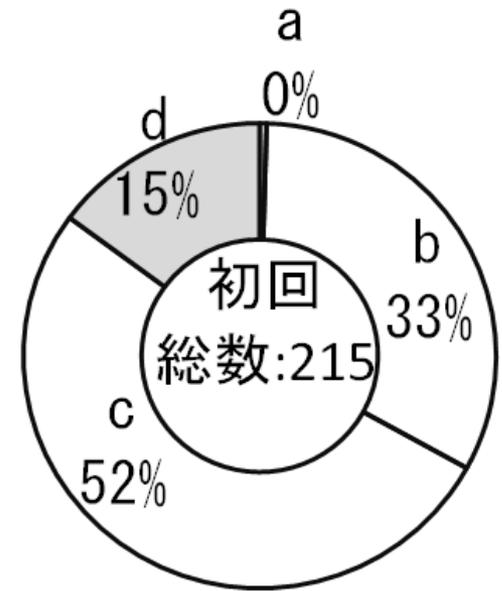
結果

H21年度 査読結果

- H21年度 投稿総数: 97件

	a	b	c	d	計
H21-初回(件)	1	70	112	32	215
H21-2回目(件)	17	46	16	1	80

- 初回査読総数 > 投稿総数 × 2
 - 約2割の投稿で初回査読時に第3査読者へ依頼
- H21年度 最終的に掲載不可: 5件
 - 採択率 = $92/97 = 94.9\%$

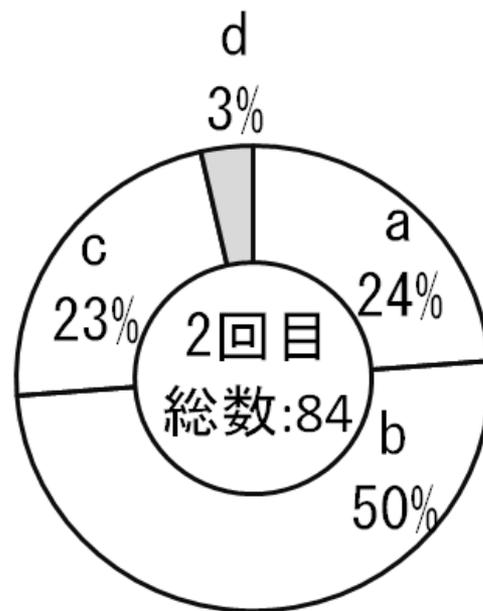
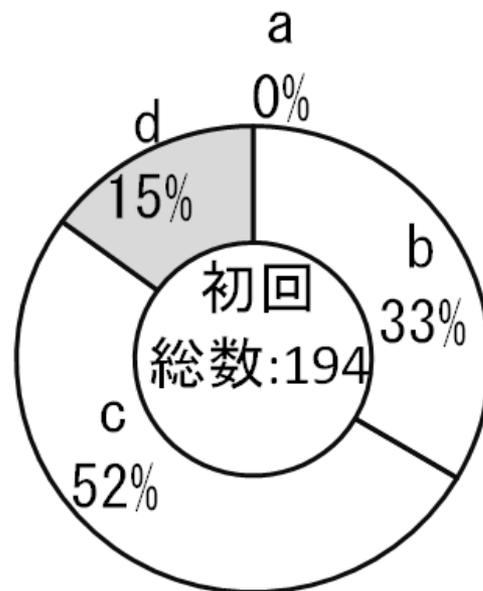


H22年度 査読結果

- H22年度 投稿総数: 89件

	a	b	c	d	計
H22-初回(件)	0	65	100	29	194
H22-2回目(件)	20	42	19	3	84

- H22年度 最終的に掲載不可: 7件
 - 採択率 = $82/89 = 92.1\%$
- 2年平均採択率: 93.5%
 - 査読判定結果に「d」が含まれていても、多くの場合に継続審査となり、最終的には掲載されていた。



採択率(acceptance rate)について

- PWE : 概略65%位 (事務局調べ) → 近年低下
- ElsevierのHP > The Peer Review Process
 - On average, an acceptance rate of 25%-50% is often reported as the modal acceptance rate for publications.
- 採択率を公表している雑誌も多い
例 : Nature (HPより)

Year	Submissions	Papers published	% Published
2010	10,287	809	7.9
2011	10,047	813	8.09

掲載不可事例の査読判定(2年度分)

査読判定	論文(件)	報文(件)
dd	4	1
cd-d	2	3
bd-d	1	0
cd-c→cd	1	0

•研究論文

初回査読で2査読者ともd判定した事例が半数
再査読後に掲載不可が決定されたものも1件あり

•研究報文

第3査読者へ付されたものの比率が高かった

掲載不可事例の検討の手順

対象期間中に掲載不可となった12件全ての投稿の
査読報告書を精査



d判定であった査読24件で、査読者が行った指摘
の要点を、箇条書きにして抽出



これらを分類整理



事例数は少ないものの、査読者がd判定と判断する
根拠として、共通して表れるものが認められた

d判定の査読での指摘事項(その1)

指摘事項	論文 (件)	報文 (件)
必要性, 有用性が述べられていない	7	2
方法の妥当性に疑問があるか, 説明不足である	7	1
実証に基づかない著者の主観が述べられている	6	1
既知の知見が述べられているにすぎない	3	4
推敲が不十分である	3	0
新たに提案した物の内容が説明されていない	3	0

【参考】掲載不可の総数: 論文8件, 報文4件

d判定の査読での指摘事項(その1)

指摘事項	論文 (件)	報文 (件)
必要性, 有用性が述べられていない	7	2
方法の妥当性に疑問があるか, 説明不足である	7	1
実証に基づかない著者の主観が述べられている	6	1
既知の知見が述べられているにすぎない	3	4
推敲が不十分である	3	0
新たに提案した物の内容が説明されていない	3	0

【参考】掲載不可の総数: 論文8件, 報文4件

d判定の査読での指摘事項(その2)

指摘事項	論文 (件)	報文 (件)
導入と結果とが乖離している	3	0
前提となる実験条件の記述が不足している	3	0
当該議論に不可欠なデータが示されていない	2	2
新規性が述べられていない	2	0
図表の不備がある	2	0
結論が示されていない	1	0
論旨と関係ない不要部分が多くを占めている	0	4
既往の研究のレビューが行われていない	0	2

【参考】掲載不可の総数：論文8件，報文4件

まとめ

● 研究論文

- 研究の**必要性**，**有用性**を十分に読者に伝えることが重要である
- 著者の**主観を述べることは避けるべき**
- 本論文集の特徴として室内実験や現場観測を行った投稿が多いが，**実験や調査の方法が妥当**であるかどうかという点は重要

● 研究報文

- **既知の知見の解説や羅列**になっていないことに留意すべき
- **論旨と関係しない不要な記述**が多くないことに留意すべき